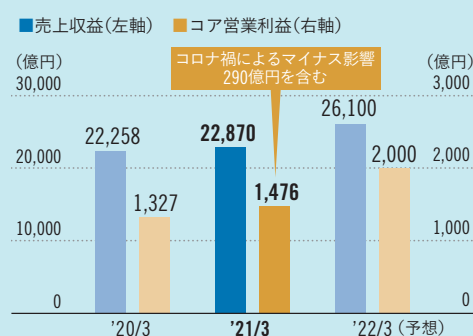


住友化学 vs 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症による肺炎などでお亡くなりになった皆さまに謹んでお悔やみを申し上げますとともに、罹患された皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。また、感染拡大防止に尽力されている医療関係者をはじめとする多くの方々に衷心より敬意を表します。

当社事業への影響

2020年度は、石油化学部門やエネルギー・機能材料部門では、自動車関連用途などで新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた一方、情報電子化学部門では巣ごもり需要や在宅勤務需要を背景に、半導体関連やディスプレイ関連が伸びました。また、健康・農業関連事業部門と医薬品部門の業績は当感染症の影響をほとんど受けませんでした。このように、当社は、コロナ禍という変化の激しい状況の中、多様な事業を展開する総合化学の「守り」の強さを発揮できました。当社は、事業環境が大きく変化する中であっても、5つの事業部門が互いに支え合い、成長を続ける底力を持っています。



コロナ禍における当社の貢献

5つの事業部門を持つ当社は、複数の分野において感染拡大防止に貢献することができました。ポリエチレンフィルムの医療用ガウン原料としての供給や、飛沫防止用途の亚克力板の供給、治療薬レムデシビルの原料供給のほか、医療情報データベースを研究者へ無料公開するコンソーシアム「COVID-19リサーチデータベース」への参画など、多方面で取り組みを行いました。今後も、社会のさまざまな要請に応えられる間口の広い化学産業の特長を活かし、この非常事態の収束に貢献していきます。

今こそ、
総合化学の強みを
発揮するとき

農業用ポリエチレンフィルムを、医療用ガウンの原料として供給

当社は2020年4月から7月にかけて、医療従事者が着用する使い捨ての医療用ガウンが不足していることを受け、他用途に提供している当社グループのポリエチレンフィルムの中から、本用途に合致するフィルムを医療用ガウンの縫製を行う企業に緊急かつ優先的に提供しました。提供した量は医療用ガウンおよそ230万着分に相当します。このフィルムは、原料となる樹脂を当社の千葉工場で生産し、その樹脂を使用してグループ会社であるサンテラ株式会社で加工・生産しているものです。当社の製品が医療現場の保護具不足解消に貢献したことは、社員の励みにもなりました。



コロナ禍でのPMI※

南米農薬事業買収

南米拠点の統合進捗

- 2019年9月 本件を合意
- 2020年4月 買収完了
- 2020年8月 一体運営開始

住友化学は、2020年にニューファーム社の南米子会社4社（ブラジル・チリ・アルゼンチン・コロンビア）を買収しました。計画当初は予想していなかった新型コロナウイルス感染症の世界的拡大によって、当社の既存南米事業との統合作業はあらゆる制約のもとで進めることとなりました。

※ 買収後の統合プロセス

現地に聞く

Q&A

2019年6月より住友化学ブラジルの社長を務め、南米農薬事業のPMIをリードしてきたファンフェレイラに現地の話を聞きました。



住友化学ブラジル
社長
ファン フェレイラ

現地での新型コロナウイルスの蔓延によって苦労したことは何ですか。

PMIを着実に進めることはそれだけで難しいですが、このような状況下で物理的な距離の問題を抱えながらの統合は、さらに困難を伴いました。課題はいくつもありましたが、最大の課題は、新たなステークホルダーとの信頼関係を築くことでした。特に中南米の人々と親しくすることが肝要でしたが、関係者が中南米・日本・アメリカとさまざまな場所におり、移動も制限されたことから、実際に会って話ができない中で信頼関係を築く必要があり、一層の努力が求められました。

移動が制限される中、どのように信頼関係を築きましたか。

たとえオンラインの画面越しであったとしてもチームメンバーが集まる機会を作り、直接対話することを大切にしました。また、リーダー層に対するトレーニングにも注力し、仲間の意見に耳を傾け尊重する、住友化学の文化の重要性を伝えました。

コロナ禍でも滞りなくPMIが進捗している理由は、どんなところにありますか。

チームの高いプロ意識と、コミットメントです。コロナ禍だからこそ工夫し、最善を尽くしてきました。例えば、南米と日本は時差が大きいため、日本では早朝に当たる時間にも何度も話し合いを行いました。このおかげで、距離は離れていても皆がその時々の状況を理解し、自分の役割を果たすことができたため、650を超えるPMIアクションを軌道に乗せることができました。また、旧ニューファーム社と住友化学に共通する顧客第一の姿勢が、両社が統合する間も重要な顧客をつなぎとめておけた大きな理由だと思います。

今後はどのように進めていきますか。

今回のPMIは、すでにほとんどが完了しており、当社の中南米での農薬事業は期待通りの成果をあげています。今後は、新規殺菌剤インディフリンの現地での上市、バイオラショナルの販売拡大に取り組んでいきます。当社の中南米での農薬事業は、今後、売上高を倍増させる目標を掲げています。そのためにチーム一丸となって、コロナ禍に負けずポジティブに頑張っていきたいと思います。



ブラジルの農場



マラカナウ製剤工場除草剤ライン